

■新渡戸伝 藩政家。新渡戸稻造の祖父。浪人中、三本木の開拓を志し、転変の後、藩の勘定奉行になるや実現に邁進。
にとべつたう
松平定信引退1793＝ 陸奥国花巻城下で、盛岡藩士新渡戸維民の子に生まれる。

伊能測量始・1800＝ 7歳： 藩主南部利敬にお目見え、

一九膝栗毛始1802＝ 9歳：

コ・ロフ・ニ・ン拿捕 1811＝18歳：

水野忠成老中1818＝25歳： 仕官していたが、

・・・・・・ 1820＝27歳： 花巻で兵術を教えていた父が事件に連座して流罪になると、200年来の家を片付け、盛岡の自家の救助も謝絶して、父を追い、家族を引連れて下北郡川内に行き、一家を養うべく農業するも失敗したため、仮名で盛岡に出て商業を習って行商するうち、

英船浦賀来航1822＝29歳： *川内の人の金融方依頼を受けて江戸に上ると、小間物を仕入れて藩内で販売するとともに、材木商を始め

シ・ボ・ル鳴滝塾1824＝31歳： 十和田の檜の伐木を計画、

異国船打払令1825＝32歳： 江戸に出て資金を調達すると、盛んに伐木して、八戸から深川に回漕し、

日本外史・・ 1827＝34歳： 甲州御嶽や遠州千頭山などに行つて、材木の切り方や川流しの方法を研究、

シ・ボ・ル事件・ 1828＝35歳： 江戸の大火もあつて、大きな利益を得、のちの開拓資金となる。

シ・ボ・ル追放・ 1829＝36歳：

富籤流行・・ 1830＝37歳： *山奉行に任命されて再び仕官し、各地に鉤の手型防風林を造成するが、

天保大飢饉始1833＝40歳： 諸国漫遊に出、下関にまで至り、この年始まった天保の大飢饉の報を聞くと、その帰途に、越前三国港の三国与兵衛に救荒策を訪ね、銭屋五兵衛と救助米供給の約束をするなど、本州のほぼ全域を回る。

大塩平八郎乱1837＝44歳： 尾張藩と交渉して五千俵の米を移入したことを讒言されて、謹慎塾居の身になると、

適塾わづン・ 1838＝45歳： 「改正武家系譜」「武家略伝」80巻の筆写を完成させ、

阿部正弘首座1845＝52歳： 三戸代官を経て、

・・・・・・ 1847＝54歳：

・・・・・・ 1848＝55歳： *勘定奉行になると、財政再建のため三本木原の開拓を決意し、

岩手・志和・稗貫・和賀郡内の開墾事業に成功すると、いよいよ三本木平野開拓に乗り出し、

万次郎帰国・ 1852＝59歳： 三本木平野の实地検分をして開墾上水の可能性を確信、

ペリー来航・ 1853＝60歳：

開国開港・・ 1854＝61歳： 同志を募り、

安政大地震・ 1855＝62歳： 勘定奉行を辞し、願書を提出して許可され、着手、オランダ流測量器による最新の技術で、

松下村塾・・ 1856＝63歳： 熊の沢-矢神間1412間の隧道を掘抜き、

安政の大獄・ 1859＝66歳： 三本木への上水に成功する。

桜田門外変・ 1860＝67歳： 南部藩主が視察して、新町名を命名。

遣欧使節・・ 1861＝68歳： 農家130余名に馬鈴薯の種芋を分配して凶作に備え、

馬市を始めたり、子十次郎創案による基盤の目の区画を整備、

この間、超インフレが進行して資金面の苦労があるものの、同志はじめ多くの人々の努力で開田とともに、

市や製革・鋳物工場などの諸施設の整備や植林も進んで、

薩摩藩士密航1865＝72歳： 開発高も970石余に達し、

薩長同盟・・ 1866＝73歳： 病気になる、自らの墓所を定める。

大政奉還・・ 1867＝74歳： 第二上水事業に取組み始めていた長男が死去。

明治維新・・ 1868＝75歳：

戊辰戦争終・ 1869＝76歳： 七戸藩の家老・大参事となる。凶作のため、三本木在住者に旅費を支給して本籍に帰し、

初の日記新聞1870＝77歳： 民部省に国営化の願書を提出後、民部省から凶作救助金を借入れるなど、最後まで奮闘し、

廃藩置県・・ 1871＝78歳： 三本木会所で、没した。

遺稿に「太素日記」「太素漫筆」がある。経世書「夢中翁嘉言」の筆者であることが確認された。